

芸文だより

第31号

平成26年 3月12日
村山市芸術文化協議会

第49回村山市芸術祭シンボル事業

個性あふれる「書の色紙展」を開催



個性的な作品が並んだ特別出品コーナー



児童生徒の好きな言葉を書きました



多くの市民の方に鑑賞していただきました

第四十九回村山市芸術祭シンボル事業「書の色紙展」が十一月二日から四日までの三日間、市民会館大会議室を会場に開催されました。

これまでの芸術祭シンボル事業は、ほとんどが大ホールを会場とした公演主体であったため、今回は展示ものを盛り上げようと企画したものです。

色紙展は今回で三十九回目を迎え、書道会の会員のほか、志布村山市長や海老名市議会議長、児玉県議からも出品い

ただき、また芸文協加盟団体の代表、顧問、理事、幹事の方からもご協力いただきました。書道を習っている小中高生の作品百二十点を加え、合計二百四十点の個性あふれる作品が並びました。

作品の内容は自由で、自分の好きなことばや格言など多種多様な作品が展示され、会期中は約五百名近い市民の方に鑑賞していただき、市民参加の「書の色紙展」となりました。



次世代に光を

村山市芸術文化協議会
会長 齋藤 峻

本市芸術文化活動に対し、多くの村山市民のご指導、ご協力をいただき心から深く感謝申し上げます。

さて、昨年の第四十九回村山市芸術祭は、厳しい社会環境の中にあつて各ジャンルの日頃の研鑽によりまして盛会裡に閉幕することができました。ありがとうございました。

今年は、村山市制施行六十年、本市芸術文化協議会設立五十周年の大きな節目の年であります。

少子高齢化社会、趣味の多様化により芸術文化活動に携わる人口の減少は、本市に限らず全国的な現象であります。そんな中、本協議会加盟団体に限らず市内で活動されております各サークルの参加を

いただきながら、第五十回村山市芸術祭を賑々しく開催できますようご協力をお願い申し上げます。

芸術文化活動を取り巻く厳しい情勢の中、大きな課題は後進の育成であります。

これからの本市芸術文化活動の成否は、いかにして多くの若年層を芸術文化活動に目を向けさせるかであると思ひます。

各団体におかれましては、知恵を出し合い、次の世代に光を当てながら後進の育成、指導を図りまして、ひとりでも多くの会員を誘引できますよう、みんなで頑張つてまいります。

市民のみなさんご支援をお願い申し上げます。



劇団赤ひげのお陰様で五十周年

劇団赤ひげ 鈴木正弘

お陰様をもちまして、この度「劇団赤ひげ」は、創立五十周年という大きな節目を迎えることができました。

一九六三年ドラマグループとして設立、翌年「夕鶴」(作・木下順二)で旧橋岡・西郷・大高根中学校体育館を会場に巡回公演し、旗揚げいたしました。以来、「劇団土」



感動を呼んだ「お倉物語」公演

「劇団赤ひげ」と改名しながら、毎年定期公演の作品づくりをしながらも継続してきた歴代の代表者・団員の情熱に……。また会場に足を運

んでいただいた多くの観客の皆様にご感謝申し上げます。次第です。

今回、記念公演として取り組んだ作品は一九九〇年に初演した「お倉物語」(劇案

朝鳥奉公・脚本 遠藤順迷・脚色 鈴木正弘)。大倉地域の「大倉堤」に伝わる「おくら伝説」をもとに、赤ひげオリジナルの「お倉物語」を創作、発表させていただきました。村山市民会館小ホールを会場に十一月三十日・十二月一日の二回公演で、それぞれ立見が出るほどの盛況で、なんと幕を下ろすことができました。

この作品に取り組んだのは「アマチュア劇団」から「地域劇団」として存在していることと決意した私たちにとつて記念すべき作品だからです。以前は中央の作家のいわゆる名作といわれる作品を借りてきて演じていたわけですが、この地域には多くの民話や伝説があり、素晴らしい人々が暮らし、地域の作家もいます。せつかくここで呼吸をさせ



拍手が鳴り止まなかったカーテンコール

村山市民会館 各種コンサートを開催

市民会館では平成二十五年の事業として「ビリーバンバンばらまつりコンサート・イン村山」「松永貴志ジャズピアノトリオライブ」「山形交響楽団村山定期演奏会」を開催しました。

六月に行われたビリーバンバンコンサートは、八百名を超す入場者で大ホールが満席となる大盛況でした。白いプランコを始め往年の名曲が次々と披露され、曲間での菅原兄弟の絶妙なトークにも入場者は大満足な様子でした。

九月の松永貴志ピアノジャズライブは、名器スタインウェイを天才ピアノニスト松永貴志により自由自在に操つら



松永貴志ジャズピアノトリオライブ

れ、一流のベーシストとドラマーが加わったクオリティの高いステージが観客を魅了しました。

十二月には第四十回山形交響楽団村山定期演奏会を開催しました。演奏会終了後、会館を後にする入場者の口々から、ソリスト高木和弘氏のバイオリン演奏のレベルの高さに驚嘆の声が聞かれるなど、大好評の演奏会となりました。市民会館は今年で開館四十八年目を迎えます。これからも皆様方に応援していただける自主事業を企画して参りますのでよろしく願ひします。

(永瀬 淳)



山響村山定期演奏会

最上徳内記念館 開館二十周年記念

「名所江戸百景と徳内著関東十州川船改役所用図展」

平成二十五年度のメイン特別展として日展洋画作家三十



工藤道汪さんによるギャラリートーク

真下慶治記念美術館 「日展作家34人展」

「日展作家34人展」

四人の作品を日展よりお借りし、開催しました。当美術館での日展展は二回目となります。今回の展覧会では既に亡くなられた作家も含め、戦後から現在まで活躍している三十四人の作品を展示しました。

静物画、風景画、人物画など多彩な作品が並び、バラエティに富んだ趣のある絵ばかりで、日展作家技量の素晴らしさに入館者も満足していただけな事と思ひます。当然な

がら真下画伯の作品も展示しましたが、ひとときわ当館の雰囲気と相まって目を引いていました。

九月六日には日展作家である工藤道汪氏のギャラリートークを開催しました。三十四人の作家、そして各々の作品に込められた思いや特徴、画風等を解説していただきました。当日は、老若男女を問わず日展ファンの方々が賑わいました。(鈴木正人)

村山市と東京都台東区友好都市提携五周年を記念して開催しました本企画展は、九月二十一日にオープニングセレモニーを行い台東区長、村山市長、区議会議員、市議会議員の挨拶の後、テープカットで幕を開けました。

一階展示室には台東区所蔵の広重作品が並び、浅草の賑わいや上野の桜並木の美しさ等が描かれている作品に入館者の方々は観入っていました。

メインの展示品は広重の晩年の作品である名所江戸百景で接写した亀や鯉、鳥瞰図的なもの等江戸情緒の魅力満載でした。

二階展示室には、徳内が著した江戸後期の関八州を中心とした八畳程の大型水系地図等を展示しました。国立公文書館所蔵の資料で展覧会としては本邦初公開であり、徳内の署名もはっきり確認できるもので彩色も美しく、徳内の



開館20周年記念企画展オープニング

新たな一面を伺い知る事のできる貴重な展示会となりました。(鈴木正人)

第49回村山市芸術祭

第四十九回村山市芸術祭は、十月六日の「女声コーラス結成四十周年記念コンサート」を皮切りに十二月八日の親父ロックバンド「スキップ・スパーライブ」までの二カ月間、村山市民会館を主会場に開催されました。期間中それぞれの会場には多くのお客様が訪れ、芸術の秋を満喫していました。



甘い香りに包まれた五流派合同のいけばな展



艶やかな目舞公演



暖かい作品が並んだ手編み作品展



満員の聴衆を魅了した「村山混声合唱団フェブリエ」



初参加の基点焼陶芸教室作品展示会・焼もの体験会



にぎわった芸術祭お茶会



大正琴20周年記念演奏会

20周年記念の大正琴演奏会



凜とした歌声が響いた吟詠大会



労作が並んだ人形・押絵展



秀逸な作品が展示された書道展



厚岸との合同写真展

ハーモニーが響いた北村山吹奏楽団秋のコンサート



立派な枝ぶりを披露したさつき盆栽展



大作が出品された芸術祭美術展

満員の股旅舞踊チャリティーショー



人生を輝かせるたからもの

村山市女声コーラス 平

由利子

私が合唱を始めたのは、合唱団に入っていた高宮さんに声をかけていただいたのがきっかけでした。三歳の息子の手をつないではじつこで歌っていたのを覚えていますが、嫁いで初めての社会参加で、練習日がとても楽しみでした。その息子がもう四十歳。半世紀近く続けてこられたのも、どんなに大変なときも、いつも私には合唱がありました。歌詞に、メロディーに助けられ、そして一緒に歌うコーラスの皆さんがいたからです。せせらぎコーラスとして昭和四十八年に誕生以来、名



40周年記念 初のコンサート



40周年記念 初のコンサート

終わりになき稽古に

村山市謡曲連盟 長岡孝二



幽玄の世界 謡曲公演

最近、結婚式に出席して感じる事ですが、仲人さんのいない披露宴が多くなっている様に思います。又、祝言の謡や長持唄等も聞く機会が少なくなつた様に思われます。時代の流れかもしれません、寂しく感じます。

も習ってみないか」と言われ、東根の先生の稽古部屋に足を運んだのが、謡曲との出会いの始まりでした。会員の中には、高度な曲目の免許状を宗家より受けたる会員もおり、張り切っておるところであります。

奥深き謡曲の道は、終わりになき稽古に励みてこそ謡曲の神髄に達せられるものと信じて、及ぶべくもないが、観阿弥、世阿弥の偉大なる始祖の心境に一步でも、半歩でも近づき、精進を重ねることを心掛けるものです。

生音の迫力を

三味線民謡正徳会 三山徳昭

私達「三味線・民謡 正徳会」は、会主、三山正徳を中心に県内各地で演奏活動を行っています。古くから唄い継がれる民謡を継承・保存すべく活動しています。

アで耳にする機会はかなり増えてきているように思えます。しかしながら、生で演奏を聴く機会はまだまだ少ないのが現状です。津軽三味線は絃楽器でありながら、打楽器的な要素も併せ持つという特性から生で聴いていただくことでは魅力がより一層伝わるのではないかと考えています。これからも一層精進し、一人でも多くの方に津軽三味線そして民謡に興味を持っていて



手拍子が会場を包んだ民謡舞踊フェスティバル

親父バンドの挑戦

ロックバンドSKIP 佐藤栄一

「この歳になって打ち込めるものがあるっていいよな」、「自分たちが作った曲を人前で歌えるなんて幸せだよな」メンバーが集まると、そんなことがよく話題になる。バンドを結成して約三十年、メンバー七人中六人が、五十歳を過ぎた親父（おばさん）になってしまった。ここ最近の活動といえば、一年の半分はCD制作、あとの半分は毎年十二月に行うライブに向けての練習である。素人親父が本気で音楽に向

き合った時に、何ができるのだろうか？どこまでやれるのだろうか？それが、私たちのテーマであり、挑戦でもある。オリジナル曲を作り、演奏することにこだわりながら、一人でも多くの方に感動を与えられるような活動ができればと考えている。また、音楽を通して、何か地元貢献できればとも思っている。



親父パワー全開！SKIPライブ

とが励みになっていく。まだ、私たちの音楽を聞いたことのない方は、是非十二月のライブに遊びに来てください。そして、真面目にロックする親父たちの姿を見てください。

うことで、おひき初めをしてその後、懇親会をしております。少しでも日本の伝統音楽の奏でる音色に沢山の方々に親しんでもらい、耳を傾けていただければ、今後もお稽古に精進していきたいと思っております。

美しい音色に魅せられて

村山三曲協会 鈴木市子

お正月といえば、必ずといっていいほど、六段の調べの曲が流れてきます。心が本当に和みます。

今年度の村山三曲協会の外部における演奏活動は、今までになく素晴らしく、三月の段々ロングな雛まつりの公演に始まって、九月の人権擁護のアトラクションでの公演。十月には、村山市芸術祭開幕式で演奏。十一月の芸術祭での公演。尺八・琴・三味線と頑張りました。なかでも茶音頭の曲では、軽部社中の先生方との茶道とのコラボで、びったり息のあった演奏を行うことができました。

芸術文化功労者を表彰



村山市芸術祭開幕式の席上、平成25年度芸術文化功労者が表彰されました。誠にありがとうございます。(10月25日市民会館)

- | 【感謝状】 | 【栄光章】 | 【功労章】 |
|--------------------|--------------------------|--------------------------|
| 高橋キクヨ (戸沢・大正琴連盟) | 石井 青鳳 (富本・書道会) 毎日書道展 入選 | 瀧田 豊 (楯岡・杉島諏訪太鼓保存会) |
| 大沼 義男 (楯岡・吟友会) | 永澤 悠山 (戸沢・書道会) 毎日書道展 毎日賞 | 原田 一裕 (楯岡・美術連盟) 日展 入選 |
| 西塚 友幸 (尾花沢・社会音楽連盟) | 石井 青鳳 (富本・書道会) 毎日書道展 入選 | 佐藤 隆一 (楯岡・美術連盟) 示現会展 入選 |
| 村山市女声コーラス (社会音楽連盟) | 高梨 甌竹 (楯岡・書道会) 読売書法展 俊英賞 | 高梨 甌竹 (楯岡・書道会) 読売書法展 俊英賞 |



和のハーモニーを楽しんだ三曲公演

北村山吹奏楽団・村山混声合唱団フェブリエ 県民芸術祭奨励賞を受賞

第五十回県民芸術祭において、北村山吹奏楽団（岡村浩明団長）と村山混声合唱団フェブリエ（矢口悦男団長）が奨励賞を受賞しました。

北村山吹奏楽団は、北村山地区唯一の市民吹奏楽団として地道に活動を続け、地域の方々に吹奏楽を通じた音楽の楽しさをアピールしてきました。

これまでも小中高生の吹奏楽部や合唱部、NHK交響楽団員などをゲストに迎え、ま

た客演指揮者を招いてコンサートを行なっており、演奏能力向上への意欲が評価されたものです。

村山混声合唱団フェブリエは、毎年秋にプロムナードコンサートを開催しており、毎年趣向をこらした演出で満員の観客を魅了してきました。

地域に根差した合唱団として親しまれ、演奏内容やテクニクもしつかりしており、指揮者の意図するところが団員に浸透しているところが評

価されました。

各団体の皆様も、県民芸術祭に参加して「奨励賞」「優秀賞」を目指してみませんか。



県民芸術祭授賞式
「村山混声合唱団フェブリエ」

注目！ 声楽家 齋藤智ふさん

楯岡小学校時代、合唱部に所属し歌うことが大好きだった齋藤智子さん。中学・高校とソフトボール部に所属し、



本格的に声楽の勉強を始めたのは大学に入学してからだそうです。国立音楽大学大学院音楽研究科声楽専攻オペラ

コースを修了後、イタリアに二年間留学して本場の音楽を学んできました。

齋藤さんはソプラノの中でもソプラノリリコという声種で、しっとりとした抒情的に歌い上げるのを得意とします。これまでも数多くのオペラ公演に

出演し、数々の役を歌いあげてきました。

昨年八月にはタンクトルセンターで帰国記念コンサートを開催し、現在は山形と東京を往復しながらオペラやコンサートへの出演、リサイタルや施設等への訪問演奏なども積極的にこなしています。

三月には真下慶治記念美術館でソプラノ・デュオコンサートを開催しました。これからは非市民会館の大ホールで歌声を聴いてみたいですね。今後の活躍が楽しみです。

村山市芸文協のうごき

4	4	4	4	4	10	10	9	8	7	7	6	5	5	4	4	4			
19	19	24	25	29	3	3	28	3	21	10	9	29	25	24	19	19			
会計監査	三役幹事会・理事会	県芸文協会総会	総会	「ピリーバンバンコンサート」(後援)	三役幹事会	理事会	村山市長杯第10回羽州街道楯岡宿股旅舞踊全国大会(後援)	社会音楽連盟事業	「タフシユ・チエフ」コンサート(後援)	「松永貴志コンサート」(後援)	芸術文化功労者選考委員会	東京村山会(会長出席)	県美展子ども県展村山巡回展(後援)	村山市芸術祭開幕式・功労者表彰式	シンボル事業「書の色紙展	山形交響楽団村山定期演奏会(後援)	市芸術祭反省会	芸文だより編集委員会	北村山芸文協懇談会(尾花沢市)

あとがき

このところ「想定外」の事象が想定外に頻発しているように思える。東日本大震災、原発事故、豪雨による水道給水制限、竜巻、そしてこの二月関東甲信地方を襲った豪雪。しかしよく考えてみれば、それらは起こりうると言われていたこと。なかなかそのレベルは測りかねるが、起こりうることであれば、想定しなければならぬ。

ただ私もそうだが、人間は忘れる性を持つ。記憶の遙か彼方に追いやつてしまふ……。だから人間は生きることが「だから人間は生きることができる」と小林秀雄はいう。嗚呼また憂鬱になってきた。

(編集委員長 鈴木正弘)

芸文だより編集委員

- 鈴木正弘 (劇団赤ひげ)
- 平由利子 (村山市社会音楽連盟)
- 長岡孝二 (村山市謡曲連盟)
- 鈴木市子 (村山三曲協会)
- 三山徳昭 (三味線民謡正徳会)
- 堀澄雄 (村山フォーククラブ)